



災害前の社叢

菅生神社社叢～再生に向けて～

すがおじんじゃしゃそう
 山本町辻地区の鎮守の森として親しまれてきた菅生神社。縁起によると鎌倉時代前期の創建と伝えられ、現在も広く信仰を集めています。また、昔境内に大クスがあり、その陰が数町歩に及んだことから、山本の地名の根拠になったという言い伝えがあります。

広大な境内地のうち2万平方メートル以上に社叢が広がっています。百種を超える植物が確認され、県下でここでしか確認されていないカンザブロウノキも生育しています。長い間神域として保護されてきた結果、古い時代の植生、原始林相を残す

ことができたのでしょう。西讃平野部の植生を知る上で学術的にも大変貴重な例であることから、昭和53年に国の天然記念物に指定されました。

氏子を中心に大切に守られてきた社叢ですが、平成16年の台風災害により、数百年の樹齢をもつ高木の一部が倒れ、かつての面影が大きく損なわれてしまいました。その後、地元の辻小学校の児童による植樹や、氏子会による再生計画づくりが行われています。きっといつの日か、立派に再生した社叢の見守る中、奴行列（市無形民俗文化財）が盛大に行われる日が来ることでしょう。

<生涯学習課>

今月の市民力

介護予防サポーターの研修会が三野町保健センターで行われ、三観広域消防の救急救命士の指導のもと、AEDの利用法と救急時の救命法について学びました。介護予防サポーターは、市の介護予防事業の補助や、ご近所で閉じこもりがちな高齢者への声かけや見守り活動を行うなど、地域の中で介護予防のボランティア活動を行っています。現在、市内で活躍する介護予防サポーターは189人。誰もが安心して生活を送れるよう、日々、活動しています。

